

ダツタンソバ新芽生産へ

十勝圏機構
と帯畜大 健康食品向け狙う

本年度から始まった文部科学省の「都市エリア産学官連携促進事業」で付加価値の高い農畜産物の開発を目指す十勝圏振興機構と帯広畜産大は十一日、本年度内にもダツタンソバのsprawut（新芽）を食用に生産すると発表した。健康食品として有望視されてお

り、新しい作物として広



事業の意義を説明する有塚理事長

がりが期待される。十勝圏振興機構の有塚利宣理事長と帯広畜産大の大西正男教授らが同大で記者会見した。ソバ類のsprawutは既に栽培に成功しているものがあり、ダツタンソバについても事業化が可能と判断した。また同事業ではほかに、デンプンを搾った後のパレイシヨの有効利用策として、調味料などに使える「ペプチド」という有用物質を取り出す技

術の早期確立を目指す。ついて、「特許や企業の」と意義を説明している。有塚理事長は同事業に誕生など大きな魅力がある。（幸坂浩）